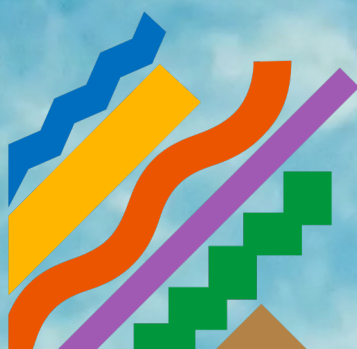




さやか星 小学校

SAYAKABOSHI
Elementary School



学校案内 2027

教育の「あたりまえ」を変えていく。

本当に子どもたちのためになる教育ってなんだろう。

それは、ひとつのものさしで子どもたちをジャッジせず、
それぞれの強みを伸ばすことに注力することだと、私たちは考えます。

さやか星小学校が推進するのは、
行動分析学を駆使し、デジタルとかけ合わせた新しい教育。
一人ひとりの学習の進度に合わせた「パーソナライズ学習」、
望ましい行動や社会性を身につけるための「スクールワイドPBS」。
そして教職員と親が一緒になって取り組んでいく、
安心・安全な学校風土づくりのための「いじめ防止3Rプログラム」。

様々な観点から、子どもたちを見つめることで
点数だけでは見えない一人ひとりの価値を引き出し、
お互いが尊重し合い、自分らしくのびのびと育っていく。
ひとつのものさしではなく、多様なものさしで自分の可能性を発見できる、
そんな「マルチものさし」の考え方が当たり前となる教育を。

いつしか、それが新しい日本の教育のスタンダードとなり、
活躍していく子どもたちで溢れる社会を目指して。



- 2011** ● 創立者・奥田健次が私財を投じて新渡戸文化学園から御代田町の土地建物〔地積16604.63㎡（5022.90坪）地目：宅地〕購入。
- 2012** ● 奥田健次が大学を早期退職し、長野県に移住。行動分析学の私塾を開校し、全国から専門職を集め養成。単身で学校法人、社会福祉施設の設立を構想。
- 2014** ● サムエル幼稚園設立準備会、発足。初代代表に小泉俊博氏（現・小諸市長）が就任。
- 2016** ● 長野県私立学校審議会にて幼稚園の設置（一次審査）認可。※3度目の申請による。
- 2017** ● サムエル幼稚園、新築園舎着工。（施工会社：株式会社トモノ）
- 2018** ● 長野県私立学校審議会にて学校法人の設立、幼稚園の設置、（二次審査）認可。
● 学校法人西軽井沢学園、登記。初代理事長に創立者・奥田健次が就任。
● 奥田健次理事長、幼稚園土地及び園舎を法人に寄附。
● サムエル幼稚園、園舎竣工。
● 創立者の母である奥田章子理事、運営資金の一部（持分26分の5）を法人に寄附。
- 2020** ● サムエル幼稚園、御代田町に開園。初代園長に奥田章子が就任。（定員35名）
● サムエル幼稚園内に児童発達支援事業所ハンナが認可。（株式会社アカデミーの運営による）。
● サムエル幼稚園と業務提携した福祉事業を開始。
- 2022** ● さやか星小学校設立準備会発足。
● 小学校校歌「ああ、さやか星」完成。作詞・奥田健次、作曲は健次の実父、矢野正文氏による。
- 2023** ● 佐久市より廃校となった旧青沼小学校を購入。
● 長野県私立学校審議会にて小学校設置。（一次審査、二次審査）認可
- 2024** ● さやか星小学校、開校。初代校長に青木高光が就任。

PEOPLE



理事長・創立者 奥田 健次

応用行動分析学(ABA)・行動療法をもとに親子を支援する心理臨床家。

国内のみならず海外でも家庭や学校での子育て支援や教育コンサルティングを実施。行動上のあらゆる問題を解決に導くための洗練された技術と、一人ひとりに合わせて完全にオーダーメイド化された奇抜でユニークなアイデア、指導プログラムの緻密さについて、国内外の関係者から絶賛されている。これらの臨床活動は、しばしばドキュメンタリー番組などで紹介されている。日本で初めて行動分析学に基づく幼稚園を創立(学校法人西軽井沢学園サムエル幼稚園)。2024年4月には、さやか星小学校を開校。



学校長 青木 高光

2019年-2021年 国立特別支援教育 総合研究所・主任研究員(現在は特任研究員)

2022年-2024年まで長野県教育委員会ICT活用推進リーダーとして勤務。文部科学省DX戦略アドバイザーとして全国の学校で指導を行う。Apple社により優れたICT活用実践者としてApple Distinguished Educatorsに認定。大学時代からAAC(補助代替コミュニケーション)の研究に取り組み、教職のかたわら大学や企業と連携して、発語のない子のコミュニケーション支援のためのソフトウェア、ハードウェアの開発を行う。代表理事を勤めるNPO法人ドロップレット・プロジェクトが開発したシンボル「Drops」やアプリ「DropTap」「DropKit」は全国で活用されている。



カリキュラム監修 島宗 理

法政大学文学部心理学科教授。

行動分析学を専門とし、学校や企業における行動マネジメントを支援しながら、パフォーマンスマネジメントやインストラクショナルデザインの考え方の普及に尽力している。徳島県教育支援プロジェクトの立ち上げに貢献し、児童生徒や教職員向けの教材開発事業において、応用行動分析学に基づいたアドバイスを行ってきた。

学習・評価・対人関係と3つの「あたりまえ」を変える

当校ではすべての子どもたちの共生を実現するために3つの「あたりまえ」を変えた教育を実施しています。学校生活でうまくいかないことを子ども自身のせいにせず、解決の糸口は環境にあるという考えのもと、今までの学校教育で「あたりまえ」とされてきたことを見直し、行動分析学とデジタルを駆使した先進的な教育を行います。

一律評価・授業ではなく自分のペースで得意を伸ばして学ぶ

独自に開発したデジタル学習支援ツールを用いて、
一人ひとりに合わせた「パーソナライズ学習」を実現

問題行動を減らすのではなく、望ましい行動を増やす

「スクールワイドPBS*1」を導入して、目標となる行動を可視化し、
望ましい行動を行うことが奨励・賞賛される

*1 スクールワイドPBS：子どもに望ましい行動を具体的に設定して、その行動ができた際に賞賛・承認をすること、そして目標として行動が起こりやすい環境を整えることで、望ましい行動を身に付けることを目指す教育メソッド

子どもの人間関係に大人が積極的に関わる

教職員と親が一緒になって取り組み、安心・安全な
学校風土づくりのための「いじめ防止の3Rプログラム*2」を
日本で初導入し、継続的改善を行う

*2 いじめ防止の3R：いじめの問題を大人の問題として捉え、未然に防ぐために大人がとるべき行動の「3R：Recognize(認識)、Respond(対応)、Report(報告)」を浸透させるべく、すべての教職員・保護者向けに提供されるプログラム



行動分析学

行動分析学は、心理学の一分野で、個々の行動が環境との相互作用によってどのように生じするかを研究し、行動が起こる原因と結果を明らかにすることを目的としています。行動分析学を用いると、人間の行動を予測することや効率的に変容することができ、教育、子育て、医療、福祉、スポーツ、組織行動など、さまざまな分野で活用されています。

行動分析学を子育てに利用した場合の考え方例

Q1. 気に入らないことがあるとすぐ友達をたたきます、おもちゃの取り合いですぐ手がでる性格です。

Q2. 「自分から歯磨きをする習慣」をつけさせたいのですが、食後の30分以内にと約束していますがなかなか守れません。

A1. おもちゃを仲良く使うための交渉のやり方を練習しましょう。すぐ手が出るのを性格のせいにはしません。手がでてしまう子は適切な行動が教えられていないからです。

A2. 約束を破った時に叱るよりも、できたときに必ず褒める。何も言われずに歯磨きできるように最初はヒントを与え、それで出来たらしっかりと認めてあげましょう。ヒントを徐々に無くしていけば良いのです。

デジタル学習

- 01** 子どもたちの個々の学びの進度にあわせた個別指導を積み重ね、データにもとづいた独自の教育プログラム開発を行っています。
- 02** 児童と全教員は共通したICT機器を使い、学習内容に合わせて最適なアプリを選択しています。
- 03** 本校の学校長はApple Distinguished Educatorに認定されています。学校のタブレットとPC等はApple社製品を導入しています。

カリキュラム パーソナライズ教育

一律評価・授業ではなく自分のペースで得意を伸ばして学ぶ
パーソナライズ教育



従来の学校

さやか星小学校

授業進行、宿題、評価は クラス全員同じ 授業進行、宿題、評価は 個人ごとに異なる

- 当校では、入学直後や新学期には、個々の子どもの学習進度を確認し、それに基づいた学年・学期の学習目標を設定します。
- 毎回の授業や活動でも、子どものニーズに応じて目標が決められ、授業内容や学習方法が子どもそれぞれに最適化されたものを提供します。
- 学習内容や教材は子どもの学習成果を基に改善され続け、学習方法や教材が発展していきます。
- 社会で広く採用されている継続的改善の考え方が学校教育にも導入されています。

専修学級

エジソン学級、ダヴィンチ学級

「専修学級」は、さやか星小学校がつくった新しい学級制度です。子ども一人ひとりの能力に応じてよりきめ細やかな個別最適な学習を実現するため、担任教諭の他、嘱託の心理職や研究員などが提供する専門性の高い教育支援プログラムを提供しています。また、異学年による少人数学級にすることによって、いわゆる「ギフテッド」と呼ばれる子どもや、個別の学習目標を達成するために必要な課題分析や支援方法の見直しが必要な子どもを対象に、合理的で最適な学習環境を提供します。専修学級の愛称は、エジソン学級、ダヴィンチ学級としています。出願時に保護者が希望することができますし、入学後に保護者の希望によって在籍級の変更希望を出すことも可能です。

※2024年度児童数9名（1年生3名、2年生3名、3年生1名、4年生2名）

時間割

時間割は文科省が定める時数に従い、標準的なものを採用しています。

授業時間や休み時間を崩している学校もありますが、当校では時間帯を揃えることで、規則的な活動パターンを身につけることを大切にしています。ただし、授業時間内に子どもが取り組む内容や活動や順序は子どもごとに異なる可能性があります。

同じクラスの算数の授業を見学すると、グループで話し合いをしている子どもたちもいれば、一人でデジタル教材に取り組んでいる子どももいる場合があります。グループでディスカッションが必要な子どももいれば、数を数えることが学習目標になっている子どももいる。ひたすら計算することが目標になっている子どももいるかもしれません。

従来の学校

さやか星小学校

授業の内容も方法もクラス全員同じ

授業は個人目標に沿って進む内容が異なる

Aさん、Bさん、Cさん：

教科書P5を先生の説明を受けながら進む

Aさん：教科書P5を先生の説明を受けながら進む

Bさん：教科書P5の問題をDさんと一緒に解く

Cさん：教科書P6の問題を一人で解く

- それぞれの子どもがいつ何をどのように学ぶかは、年度ごと、学期ごとに学習計画を立て、学習進度を測定、評価し、それに合わせて学習計画を更新していきます。

Q. さやか星小学校の教育理念について教えてください。

A. 一人ひとりが唯一無二の個性をもったユニークな存在であると認めることがまずは重要であると考えます。そして、それぞれの個性を発揮し、お互いに尊敬し、助け合いながら、のびのびと生きられる社会をつくっていくために学校教育があると考えています。地域や日本、そして世界でこうした社会を実現していくリーダーを育てていきます。そしてそのために、「できること」や「わかること」を爆発的に増やし、「できるようになること」や「わかるようになること」が楽しくなることで、自ら「できるようになりたいこと」や「わかるようになりたいこと」を見つけていけるように支援します。

Q. 「学びクリエイター」とは？

A. 様々なことに興味を持ち、自発的に学んで何かを作り出していく個性あふれる人のことです。特別な能力だとは考えていません。本来、人は誰でも「学びクリエイター」であり、その個性を可能な限り発揮できる環境をつくるのが学校の責務だと考えています。学校で学ぶのは子どもだけではありません。教師も保護者も、授業や学校に関わる専門家や地域の人々も、みな「学びクリエイター」であり、子どもと一緒に学んでいく人たちだと考えています。

Q. 「教師が教えない」ってどういうこと？

A. 子どもは指導される側、教師は指導する側という一方通行だけでなく、教師も子どもから学び、そして生み出す「学びクリエイター」として子どもとともに学んでいくことを目指しています。決まっている答えを教える教育ではなく、双方向のコミュニケーションを重ねることで柔軟に行う教育を実施していきます。

Q. 「通知表がない」中でどうやって学習の進行度を測るのですか？

A. 子どもたちの「できない」を指摘するより「できること」をもっと伸ばしていくために、全員同じ基準で優劣をつける通知表ではなく、一人ひとりの得意なことを認める評価システムを取り入れます。年にたった数回の通知表による確認ではなく、学習の進度は日々確認することができます。そのため、いわゆる「落ちこぼれ」や「浮きこぼれ」が放置されることはありません。みんなが一律の評価を受けたり、同じ項目で比べられるのではなく、一人ひとりの良さや頑張りを見つけ誉める、そして子どもたちがそのお互いの良さを認識し合うことを目的としています。

Q. 「友情騎士団の集い」ってなんですか？

A. 「友情騎士団の集い」では、毎月、特に望ましい行動を行った児童を表彰します。表彰された児童は、「木馬に乗って写真撮影」という名誉の儀式もあります。年度末には、年間アワードの表彰制度もあります。表彰された児童の望ましい行動のさらなる発展を願っていますが、それだけではなく、表彰された児童を祝福する仲間の行動にも着目しています。表彰された児童も、選ばれなかった児童も相互に仲間を応援する思いを大切にしています。

Q. 保護者の役割は？

A. 子どもと同じように成長する学びクリエイターであると考えます。保護者にとって、我が子が思うようにならないことは当然のように訪れます。その際、どのような態度や言動で子育てを行うか。そこに保護者の学ぶ姿勢が求められます。また、学習目標の個別最適化に保護者のみなさまのご協力は欠かせません。年間学習計画や学期の学習計画を立案する際にご意見をお聞きすることになります。学期の間も学習の進捗を共有します。学習目標によってはご家庭で行う学習課題の支援をお願いすることもあります。学習計画に即して行われる活動や行事に参画のご協力をお願いすることになります。保護者のみなさんが子どもと一緒に学んでいけるように、保護者向けの研修プログラムも提供します。いじめや不登校の防止には保護者の家庭での子育てのありようが大きな影響を及ぼします。さやか星小学校の教育の質は、保護者の学びと成長によって高められると考えています。

Q. 制服の指定はありますか？

A. 本校オリジナルデザインのベスト・ズボン・スカート・体操服・制リュック等、指定のものがいくつかあります。ブレザーについては色の指定はありますが、現在、制服としての指定はありません。

Q. 学校給食はありますか？

A. 地元業者による給食を提供しています。

Q. スクールバスはありますか？

A. ありません。徒歩通学、保護者による送迎か電車通学になります。
(JR青沼駅から徒歩3分)

一日のながれ

8:30 開門
8:45 朝の会
9:00 1時間目
9:50 2時間目
10:35 中休み
10:55 3時間目
11:45 4時間目
12:30 給食
13:15 清掃
13:30 昼休み
13:55 5時間目
14:45 6時間目
15:30 帰りの会
15:45 下校※

※学年によって時数・下校時間は異なります。

学校行事

04月 保護者ガイダンス / 入学式 /
前期始業式 / 保護者研修会 I
05月 個別面談
06月 運動会
07月 保護者研修 II / 水泳学習 / 夏休み
08月 避難訓練
10月 個人面談 / 前期終業式 / 秋休み /
後期始業式 / りんご遠足
11月 創立記念日
12月 保護者研修会 III / 冬休み
01月 避難訓練
03月 個人面談 / 音楽会 /
友情騎士団の集い(※年間アワード)
後期終業式 / 春休み

※「友情騎士団の集い」は毎月末に開催し、月間アワードを授与する。

学級編成

学年級

1学年1クラス (1クラス28名)

専修学級

全学年あたり2クラス(合計30名)
(複式)

さやか星小学校 入学検定

2026年

8月17日～9月1日 第1回願書受付期間
9月13日 ————— 第1回入学検定

11月4日～11月18日 第2回願書受付期間
11月28日 ————— 第2回入学検定

学費

入学金 : 300,000円 入学検定料 : 30,000円

学年級 ——— 授業料:年額750,000円 施設費教材費:年額186,000円

専修学級 ——— 授業料:年額950,000円 施設費教材費:年額186,000円

※専修学級は全学年合同の複式学級

アクセス

JR佐久平駅から車で25分

佐久平駅～青沼駅 (JR小海線36分)

※電車の本数は1時間に1～2本

※青沼駅から徒歩3分

お問い合わせ

学校法人西軽井沢学園 さやか星小学校

〒384-0621長野県佐久市入澤152-1

TEL 0267-82-8167

MAIL info@sayakaboshi.ac.jp